

口腔と全身疾患との関係について

認知症

認知症には脳血管性（脳卒中が主な原因）とアルツハイマー型の2種類があります。動脈硬化を予防することが脳卒中を予防することに繋がります。よく噛むことで刺激が脳に伝わり、学習能力に関わる物質を増やすことが出来ると考えられています。

動脈硬化

歯周病菌が動脈硬化をおこしている血管に付着すると、血管を狭める作用を促進すると考えられています。

心疾患（狭心症・心筋梗塞・心内膜症）

動脈硬化が冠動脈でおこると虚血性の心臓病となります。

肥満

内脂肪型肥満がメタボリックシンドロームの原因となる。よく噛むことで、満腹感が得られ、肥満予防になり、同時に唾液が分泌され、歯周病の予防になります。

バージャー病

手や足のゆび先が青紫色になって強い痛みがおこる。潰瘍になり悪化すると細胞が死に、壊死する病気。ニコチンなどの有害物質が、血液循環を阻害し、歯茎の血流を悪くします。タールが歯にこびりつくと、歯垢が付きやすくなり、歯周病になりやすい。

歯周病

糖尿病

歯周病がひどくなると出てくる物質（炎症性サイトカイン等）がインスリンの血糖値をコントロールする働きを妨げ、糖尿病の状態を悪化させるといわれています。

肺炎

歯周病菌など、口の中の細菌が気管に入り込み、肺炎にかかることもあります。誤嚥性肺炎を起こした人から歯周病菌が多く見つかっています。

がん

歯周病菌によって炎症がおこり、その状態が続くことで正常細胞に異常をきたし、発がんにつながるとも言われています。

胎児の低体重・早産

妊娠中に歯周病になると、歯周病の炎症により発生する物質が胎盤に影響を及ぼすと考えられています。

骨粗しょう症

骨粗しょう症の人が、歯周病になると、歯を支える骨（歯槽骨）が急激に痩せてしまう。歯周病で歯牙を喪失すると、噛む力が衰え、食事から摂取できるカルシウムなどの栄養素の吸収が悪くなり、悪循環の状態となります。

寝たきりの予防・介護予防

ロコモティブシンドローム予防

(運動器症候群・運動器の障がいのために自立度が低下し、介護が必要となる危険性の高い状態。)

サルコペニア予防

(筋肉量が減少し、筋力や身体機能が低下している状態。)

フレイル予防
(虚弱予防)

オーラルフレイル予防
(口腔虚弱予防)

歯牙喪失予防

全身疾患の重篤化予防

歯周病予防

寝たきりの予防・介護予防

健康寿命の延伸に寄与
(高齢者の健康づくりに寄与)

介護者の負担軽減

介護保険料・医療費の抑制に寄与